

イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight ex Forbes) K.Koch var. *harringtonia*.

イチイ科 Taxaceae

1. 利用対象部位：樹皮および萌芽枝

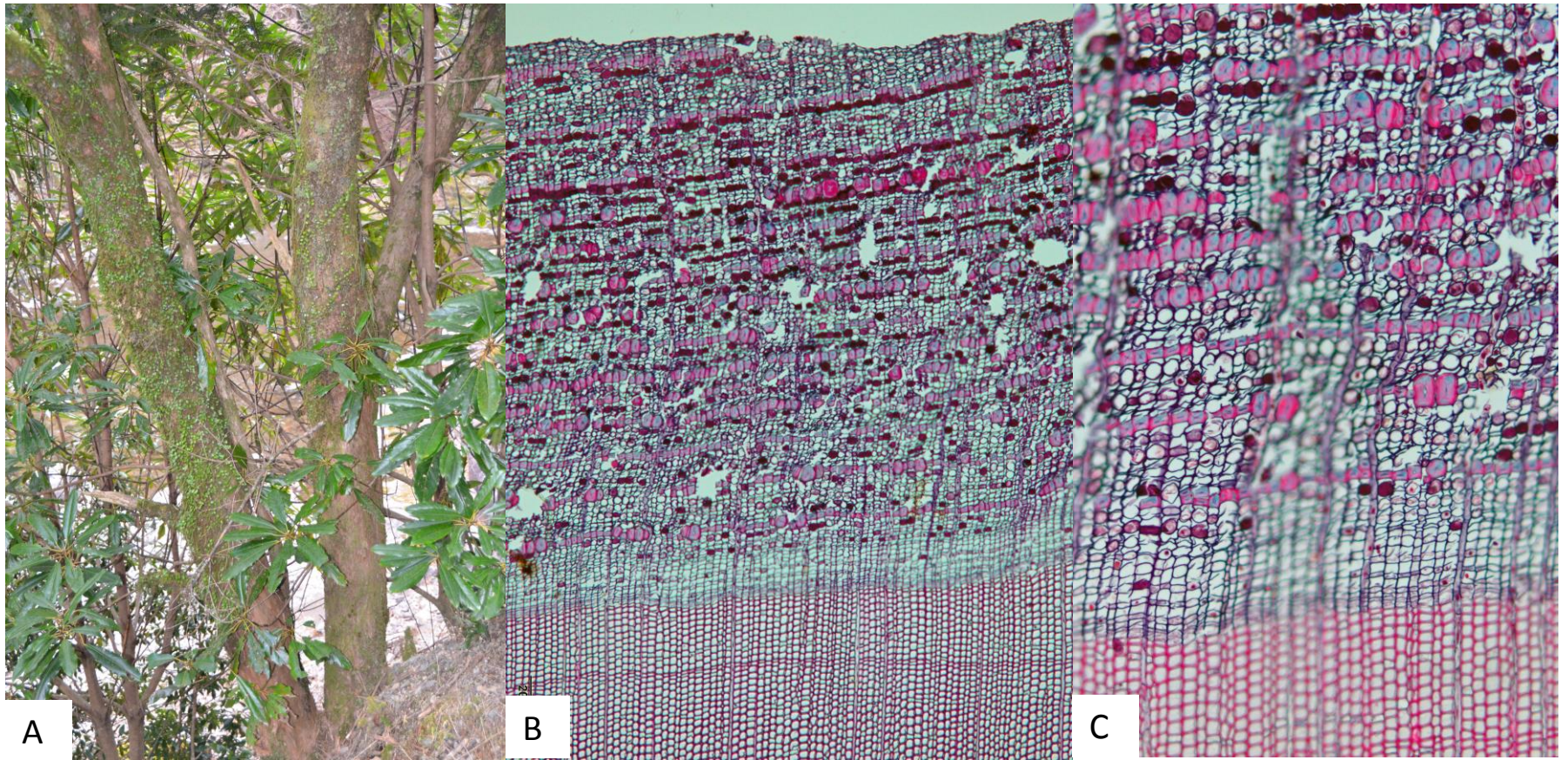
2. 組織形態：

樹皮は縦長の不定形の厚紙状にはげ落ちる。

内樹皮柔細胞-篩細胞-柔細胞の順にそれぞれ 1 細胞層の厚さで形成され、肥大成長でこれらの組織が押し出されて外方に行くにしたがって柔細胞から繊維細胞が分化してくる。繊維細胞は断面方形～長方形で壁が厚いが、時に膨張して丸く大きくなる細胞が混じるので、横断面で見たとき、繊維細胞の層は不均一に見える。さらに外方に行くと、更に再分化して厚壁異形細胞塊が形成されることがある。樹皮の放射組織は単細胞幅。

3. 利用例：なし

4. 遺跡出土遺物：樹皮の出土例はなし。太さ 2～3cm の萌芽枝の枝を払うなどして加工され、丸木の弓、手網杵、棒などとしてしばしば出土する。



A:イヌガヤの樹皮(高知県馬路村)。 B&C:内樹皮の横断面とその拡大。画面下部に二次木部および形成層帯がある。赤黒色の細胞内容物があるのが柔細胞、細胞壁が青色で細胞内容物が無いのが篩細胞、赤色で断面方形～丸形なのが繊維細胞。柔細胞-篩細胞-柔細胞の順にそれぞれ1細胞層の厚さで形成され、肥大成長でこれらの組織が押し出されて外方に行くにしたがって柔細胞から繊維が分化してくる。繊維細胞は断面方形～長方形で壁が厚いが、時に膨張して丸く大きくなる細胞が混じる。樹皮の放射組織は単細胞幅。